# 職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年		長名						
専門学校麻生 自動車大学										
設置者名	rx	設立認可年	月日代	表者名	(電話)	092-433-0633	所在地			
学校法人麻生	:塾	昭和26年3月		麻生 健		820-0018 福岡県飯塚市芳雄町3-				
分野		認定課程名	認定学科		(電話)	0948-25-5999 門士認定年度	高度専門士認定	<b>在</b> 度	職業宝建	專門課程認定年度
工業		業専門課程	2級自動車整			21(2009)年度	一 一	+ <i>i</i> X		党26(2014)年度
 学科の目的	自動車技術の	の高度化が進む中、常	 に新しい情報を取り入れ、	認証工場の整	と備主任者とし	ての責務を果たせることを[	目的とし、国家二級ガソ	リン自動車整	·····································	ニ級ジーゼル自動車整
	備士、国家二	上級二輪自動車整備士 	を養成する。							
学科の特徴(主な教 育内容、取得可能な 資格等)	主な教育内? 取得可能な相	容: 国家二級自動車整 食定: 二級自動車整備	備士に必要な自動車整備 ±(ガソリン・ジーゼル・二↓	の知識と技術 倫)、電気自動	車等の整備業	務に係る特別教育、中古自	目動車査定士、損害保険	募集人、ガス	ス溶接技能者	、アーク溶接特別教育
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要	な総授業時数又は総単位 数		義	演習	実習	実馴	験	実技
2		※単位時間、単位いずれた に記入	1,730 単位時間	617	単位時間単位	0 単位時間	1,203 単位時間 単位		単位時間単位	0 単位時間 単位
生徒総定員	生徒実	[](A) 留学	生数(生徒実員の内数)(B)	留学生書	引合(B/A)	中退率	4-IZ		<b>+</b> 12	+ IZ
150 人	116	λ.	28 人	2	4%	5 %				
	■卒業者数	(C) :	57	1	人					
	■就職希望 ■就職者数		47 47		<del></del>					
	■地元就職	者数 (F)	22		<del>\( \)</del>					
	■就職率(	E/D)	: 100		%					
	■就職者に	占める地元就職者の	引合 <b>(F/E)</b> 47		%					
	■卒業者に	占める就職者の割合(			%					
就職等の状況	■進学者数 ■その他	Į.	8		人					
33.74 13 22 10100										
			条の2に基づいて、求職 渌し、求職者の依頼に基							
	/A#n	0. 左京本本		+ + + + + + + + + + + + + + + + + + + +						
	(令和	6 年度卒業: 先、業界等	<b>皆に関する令和7年5月1日</b> 8	寺点の情報)						
	■土は汎戦									
	■ 土 は 汎 戦 (令和6年度卒									
	(令和6年度卒	業生)	販売店、民間整備工場	、ロードサーヒ	ビス					
	(令和6年度卒 国産自動車	業生)		、ロードサート	ビス	無				
第三者による	(令和6年度年 国産自動車 ■民間の評	<sup>医</sup> 業生) 販売店、輸入自動車	行評価:	、ロードサート	ビス	無				
第三者による 学校評価	(令和6年度年 国産自動車 ■民間の評	<sup>至業生)</sup> 販売店、輸入自動車 価機関等から第三者	行評価:	、ロードサーt 受審年月:			評価結果を掲載した ホームページURL			
学校評価 当該学科の	(令和6年度名 国産自動車 ■民間の評 ※有の場合、	<ul><li>(季生)</li><li>(販売店、輸入自動車)</li><li>(価機関等から第三者)</li><li>(例えば以下について任意)</li><li>(評価団体:</li></ul>	・評価 : 記載				評価結果を掲載した ホームページURL			
学校評価	(令和6年度名 国産自動車 ■民間の評 ※有の場合、	至業生) 販売店、輸入自動車 価機関等から第三者 例えば以下について任意	・評価 : 記載							
学校評価 <u>当該学科の</u> ホームページ	(令和6年度年 国産自動車 ■民間の評 ※有の場合、 https://aso	s 集生) 販売店、輸入自動車 価機関等から第三者 例えば以下について任意 評価団体: iuku.ac.ip/acet/2nd 時間による算定)	・評価 : 記載							
学校評価 <u>当該学科の</u> ホームページ	(令和6年度年 国産自動車 ■民間の評 ※有の場合、 https://aso	業集生) 販売店、輸入自動車 価機関等から第三者 例えば以下について任意 評価団体: iuku.ac.ip/acet/2nd 時間による算定) 総授業時数	f 評価: 記載 <u>/</u>	受審年月:	年月				単位時間	
学校評価 <u>当該学科の</u> ホームページ	(令和6年度年 国産自動車 ■民間の評 ※有の場合、 https://aso	業集生) 販売店、輸入自動車 価機関等から第三者 例えば以下について任意 評価団体: iuku.ac.ip/acet/2nd 特間による算定) 総授業時数 うち企業	評価: 記載 - - - - - - - - - - - - - - - - - -	受審年月: 要接の授業的	年月			160	単位時間	
学校評価 <u>当該学科の</u> ホームページ	(令和6年度年 国産自動車 ■民間の評 ※有の場合、 https://aso	業生) 販売店、輸入自動車 価機関等から第三者 例えば以下について任意 評価団体: iuku.ac.ip/acet/2nd 時間による算定) 総授業時数 うち企業 うち企業	評価: 記載 / / ・ 等と連携した実験・実習・ 等と連携した演習の授業時	受審年月: 要接の授業的	年月			160		
学校評価 <u>当該学科の</u> ホームページ	(令和6年度年 国産自動車 ■民間の評 ※有の場合、 https://aso	業集生) 販売店、輸入自動車 価機関等から第三者 例えば以下について任意 評価団体: iuku.ac.ip/acet/2nd 特間による算定) 総授業時数 うち企業	評価: 記載 / / ・ 等と連携した実験・実習・ 等と連携した演習の授業時	受審年月: 要接の授業的	年月			160	単位時間	
学校評価 <u>当該学科の</u> ホームページ	(令和6年度年 国産自動車 ■民間の評 ※有の場合、 https://aso	業生) 販売店、輸入自動車 価機関等から第三者 例えば以下について任意 評価団体: iuku.ac.ip/acet/2nd 時間による算定) 総授業時数 うち企業 うち企業	評価: 記載 / / ・ 等と連携した実験・実習・ 等と連携した演習の授業時	受審年月: 要技の授業的 等数	年 月			160 g 0 g 1, 730 g	単位時間	
学校評価 <u>当該学科の</u> ホームページ	(令和6年度年 国産自動車 ■民間の評 ※有の場合、 https://aso	業生) 販売店、輸入自動車 価機関等から第三者 例えば以下について任意 評価団体: iuku.ac.ip/acet/2nd 時間による算定) 総授業時数 うち企業 うち企業	評価: 記載 / / ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	受審年月: 実技の授業R 等数 必修の実験・	年 月 - 特数 実習・実技の			160 £	単位時間単位時間単位時間	
学校評価 当該学科の ホームページ URL	(令和6年度年 国産自動車 ■民間の評 ※有の場合、 https://aso	乗生) 販売店、輸入自動車 価機関等から第三者 例えば以下について任意 評価団体: iuku.ac.ip/acet/2nd 特間による算定) 総授業時数 うち企業 うち企業	評価: 記載 春と連携した実験・実習 春と連携した演習の授業 受業時数 うち企業等と連携した	受審年月: 実技の授業 時数 必修の実験・ 必修の演習の	年 月 			160 g 0 g 1, 730 g 160 g	単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間	
学校評価 当該学科の ホームページ URL 企業等と連携した実 習等の実施状況	(令和6年度本 国産自動車 ■民間の評 ※有の場合、 https://aso	乗生) 販売店、輸入自動車 価機関等から第三者 例えば以下について任意 評価団体: iuku.ac.ip/acet/2nd 特間による算定) 総授業時数 うち企業 うち企業 うち必修	評価: 記載 春と連携した実験・実習 等と連携した演習の授業 受業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した	受審年月: 実技の授業 時数 必修の実験・ 必修の演習の	年 月 			160 g 0 g 1, 730 g 160 g	単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間	
学校評価 当該学科の ホームページ URL 企業等と連携した実	(令和6年度年 国産自動車 ■民間の評 ※有の場合、 (A:単位の (B:単位の	<ul> <li>業生)</li> <li>販売店、輸入自動車</li> <li>価機関等から第三者</li> <li>網えば以下について任意</li> <li>評価団体:</li> <li>juku.ac.ip/acet/2nd</li> <li>計間による算定)</li> <li>総授業時数</li> <li>うち企業</li> <li>うち企業</li> <li>うち必修</li> <li>(うち企</li> </ul>	評価: 記載 春と連携した実験・実習 等と連携した演習の授業 受業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した	受審年月: 実技の授業 時数 必修の実験・ 必修の演習の	年 月 			160 g 1, 730 g 160 g	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	
学校評価 当該学科の ホームページ URL  企業等と連携した実 習等の実施状況 (A、Bいずれかに	(令和6年度年 国産自動車 ■民間の評 ※有の場合、 (A:単位の (B:単位の	乗生) 販売店、輸入自動車 価機関等から第三者 例えば以下について任意 評価団体: juku.ac.jp/acet/2nd 特間による算定) 総授業時数 うち企業 うち必修 (うち企 対による算定)	評価: 記載 春と連携した実験・実習 等と連携した演習の授業 受業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した	受審年月: 実技の授業既 等数 必修の実験・ 必修の演習の シシップの授業	年 月 - 特数 実習・実技の打 授業時数 (集時数)			160 g  1,730 g  160 g  0 g  1,730 g  160 g	単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間	
学校評価 当該学科の ホームページ URL  企業等と連携した実 習等の実施状況 (A、Bいずれかに	(令和6年度年 国産自動車 ■民間の評 ※有の場合、 (A:単位の (B:単位の	<ul> <li>業生)</li> <li>販売店、輸入自動車</li> <li>価機関等から第三者</li> <li>例えば以下について任意</li> <li>評価団体:</li> <li>juku.ac.ip/acet/2nd</li> <li>特間による算定)</li> <li>総授業時数</li> <li>うち企業</li> </ul>	評価: 記載  春と連携した実験・実習・ 春と連携した演習の授業時 受業時数  うち企業等と連携した うち企業等と連携した	受審年月: 実技の授業 時数 必修の実験・ 必修の演習の パシップの授業 実技の単位数	年 月 - 特数 実習・実技の打 授業時数 (集時数)			160 g 1, 730 g 160 g 0 g 0 g	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	
学校評価 当該学科の ホームページ URL  企業等と連携した実 習等の実施状況 (A、Bいずれかに	(令和6年度年 国産自動車 ■民間の評 ※有の場合、 (A:単位の (B:単位の	<ul> <li>業生)</li> <li>販売店、輸入自動車</li> <li>価機関等から第三者</li> <li>例えば以下について任意</li> <li>評価団体:</li> <li>juku.ac.ip/acet/2nd</li> <li>特間による算定)</li> <li>総授業時数</li> <li>うち企業</li> </ul>	新学師:  「記載  「お記載  「お記載  「お記載  「おこまで、「おいます」 「おいます」 「おいますます」 「おいますます」 「おいます」 「おいます」 「おいますます」 「おいますます」 「おいますます」 「おいますます」 「おいますますます」 「おいますます」 「おいますますますますますますますますますますますますますますますますますますます	受審年月: 実技の授業 時数 必修の実験・ 必修の演習の パシップの授業 実技の単位数	年 月 - 特数 実習・実技の打 授業時数 (集時数)			160 J	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	
学校評価 当該学科の ホームページ URL  企業等と連携した実 習等の実施状況 (A、Bいずれかに	(令和6年度年 国産自動車 ■民間の評 ※有の場合、 (A:単位の (B:単位の	乗生) 販売店、輸入自動車 価機関等から第三名 例えば以下について任意 評価団体: iuku.ac.ip/acet/2nd  特間による算定) 総授業時数 うち企業 うち必修 (うち企  対による算定) 総単位数 うち企業 うち企業	新学師:  「記載  「お記載  「お記載  「お記載  「おこまで、「おいます」 「おいます」 「おいますます」 「おいますます」 「おいます」 「おいます」 「おいますます」 「おいますます」 「おいますます」 「おいますます」 「おいますますます」 「おいますます」 「おいますますますますますますますますますますますますますますますますますますます	受審年月: 実技の授業 等数 必修の実験・ 必修の演習の シシップの授業 実技の単位 数 女	年 月 寿数 実習・実技の打 授業時数 (時数)	受棄時数		160 J 0 J 1, 730 J 0 J 0 J 0 J	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	
学校評価 当該学科の ホームページ URL  企業等と連携した実 習等の実施状況 (A、Bいずれかに	(令和6年度年 国産自動車 ■民間の評 ※有の場合、 (A:単位の (B:単位の	乗生) 販売店、輸入自動車 価機関等から第三名 例えば以下について任意 評価団体: iuku.ac.ip/acet/2nd  特間による算定) 総授業時数 うち企業 うち必修 (うち企  対による算定) 総単位数 うち企業 うち企業	評価: 記載	受審年月: 実技の授業 等数 必修の実験・ 必修の演習の シシップの授業 実技の単位を な	年 月 - 特数 実習・実技の 投業時数 (終時数)	受棄時数		160 J 0 J 1,730 J 0 J 0 J 0 J	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位 単位 単位 単位	
学校評価 当該学科の ホームページ URL  企業等と連携した実 習等の実施状況 (A、Bいずれかに	(令和6年度年 国産自動車 ■民間の評 ※有の場合、 (A:単位の (B:単位の	乗生) 販売店、輸入自動  「価機関等から第三名 例えば以下について任意 評価団体: iuku.ac.ip/acet/2nd  特間による算定) 総授業時数  うち企業 うち必修  対による算定)  総単位数  うち企業 うち必修	新学価:  「記載  「お記載  「お記載  「おこまで、」」  「おこまで、「おこまで、「おこまで、」」 「おこまで、「おこまで、「おこまで、」」 「おこまで、「おこまで、「おこまで、」」 「おこまで、「おこまで、」」 「おこまで、「おこまで、」」 「おこまで、「おこまで、」」 「おこまで、「おこまで、」」 「おこまで、」」 「おこまで、」 「おこまで、」」 「おこまで、」 「おこまで、」 「おこまで、」 「おこまで、」 「おこまで、」 「おこまで、」 「まて、」」 「まて、」 「まて	受審年月: 実技の授業的 等数 必修の実験・ 必修の演習の シップの授業 実技の単位数 な 必修の実験・ 必修の実験・ 必必修の演習の	年 月 寿数 実習・実技の打 授業時数 (時数) 女 実習・実技の1	受棄時数		160 J 0 J 1,730 J 0 J 0 J 0 J	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位 単位	
学校評価 当該学科の ホームページ URL  企業等と連携した実 習等の実施状況 (A、Bいずれかに	(令和6年度年 国産自動車 ■民間の評 ※有の場合、 (A:単位の (B:単位の	乗生) 販売店、輸入自動  「価機関等から第三名 例えば以下について任意 評価団体: iuku.ac.ip/acet/2nd  特間による算定) 総授業時数  うち企業 うち必修  対による算定)  総単位数  うち企業 うち必修	(評価:  (記載)  (本述 )  (	受審年月: 実技の授業的 等数 必修の実験・ 必修の演習の シップの授業 実技の単位数 な 必修の実験・ 必修の実験・ 必必修の演習の	年 月 寿数 実習・実技の打 授業時数 (時数) 女 実習・実技の1	受棄時数		160 J 0 J 1,730 J 0 J 0 J 0 J	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位	
学校評価 当該学科の ホームページ URL  企業等と連携した実 習等の実施状況 (A、Bいずれかに	(令和6年度年 国産自動車 ■民間の評 ※有の場合、 (A:単位の (B:単位の	業生) 販売店、輸入自動 I	宇と連携した実験・実習・     宇と連携した演習の授業的     受業時数     うち企業等と連携した     うち企業等と連携したインターン     等と連携した演習の単位数     首の数     うち企業等と連携した     すち企業等と連携した     ま等と連携した     ま等と連携した     ま等と連携した     ま等と連携したインターン	受審年月: 実技の授業 時 素技の授業 を を を を を を を を を を を を を を を を を を を	年 月 寿数 実習・実技の対 授業時数 後時数) 女 実習・実技の対 な数 立数)	受棄時数		160 J 0 J 1,730 J 0 J 0 J 0 J	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位	
学校評価 当該学科の ホームページ URL  企業等と連携した実 習等の実施状況 (A、Bいずれかに	(令和6年度本 国産自動車 ■民間の評 ※有の場合、 (A:単位を (B:単位を	乗生) 販売店、輸入自動車 「価機関等から第三者 例えば以下について任意 評価団体: iuku.ac.ip/acet/2nd  特間による算定) 総授業時数 「うち企業 「うち企業 「うち企業 「うち企業 「うち企業 「うち企業 「うち企業 「うち企業 「うち企業	評価: 記載	要審年月: 実技の授業 実技の授業 必修の実験・ 必修の実験・ 変技の単位 を な 必修の実験・ で がある。 で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	年 月 寿数 実習・実技の引 授業時数) 女 実習・実技の引 単位数 立数)	受棄時数	ホームページURL	160 J 0 J 1.730 J 160 J 0 J	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位	
学校評価 当該学科の ホームページ URL  企業等と連携した実 習等の実施状況 (A、Bいずれかに	(令和6年度本 国産自動車 ■民間の評 ※有の場合、 (A:単位を (B:単位を	乗生) 販売店、輸入自動車 「価機関等から第三者 例えば以下について任意 評価団体: iuku.ac.ip/acet/2nd  特間による算定) 総授業時数 「うち企業 「うち企業 「うち企業 「うち企業 「うち企業 「うち企業 「うち企業 「うち企業 「うち企業	評価: 記載	要審年月: 実技の授業 実技の授業 必修の実験・ 必修の実験・ 変技の単位 を な 必修の実験・ で がある。 で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	年 月 寿数 実習・実技の引 授業時数) 女 実習・実技の引 単位数 立数)	受業時数	ホームページURL	160 J 0 J 1.730 J 160 J 0 J	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位	
学校評価 当該学科の ホームページ URL  企業等と連携した実 習等の実施状況 (A、Bいずれかに	(令和6年度本 国産自動車 ■民間の評 ※有の場合、 (A:単位を (B:単位を	乗生) 販売店、輸入自動車 「価機関等から第三者 例えば以下について任意 評価団体: iuku.ac.ip/acet/2nd  特間による算定) 総授業時数 「うち企業 「うち企業 「うち企業 「うち企業 「うち企業 「うち企業 「うち企業 「うち企業 「うち企業	評価: 記載	要審年月: 実技の授業 実技の授業 必修の実験・ 必修の実験・ 変技の単位 を な 必修の実験・ で がある。 で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	年 月 寿数 実習・実技の引 授業時数 (専修等 (専修等	受業時数	ホームページURL	160 J 0 J 1,730 J 0 J 0 J 0 J 1 J 1 J 1 J 1 J	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携した実習等の実施状況 (A、Bいずれかに記入)	(令和6年度本 国産自動車 ■民間の評 ※有の場合、 (A:単位を (B:単位を	乗生) 販売店、輸入自動車 「価機関等から第三者 例えば以下について任意 野価団体: iuku.ac.ip/acet/2nd  特間による算定) 総授業時数 「うち企業	評価: 記載	要審年月: 実技の授業 実技の授業 必修の実験・ 必修の実験・ 変技の単位 を な 必修の実験・ で がある。 で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	年 月 ・ 実技の ・ 実技の ・ 実技の ・ 実技の ・ 実技の ・ 単位数 ・ な数) ・ (専修学	受業時数 単位数 - - - - - - - - - - - - - - - - - - -	ホームページURL	160 J 0 J 1,730 J 0 J 0 J J J J J J J J J J J J J J J	単位時間 単位時間 単単位時間 単単位時間 単単位時間 単単位 位 位 位 位 位 位 位 位 位 位 位 位 位 位 位 位 位	
学校評価 当該学科の ホームページ URL  企業等と連携した実 習等の実施状況 (A、Bいずれかに	(令和6年度本 国産自動車 ■民間の評 ※有の場合、 (A:単位を (B:単位を	乗生) 販売店、輸入自動車 「価機関等から第三者 例えば以下について任意 評価団体: iukw.ac.ip/acet/2nd 特間による算定) 総授業時数 「うち企業 「うち企	評価: 記載	要審年月: 実技の授業 実技の授業 必修の実験・ 必修の実験・ 変技の単位 を な 必修の実験・ で がある。 で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	年 月 	受業時数 単位数 - - - - - - - - - -	ホームページURL	160 J 0 J 1,730 J 0 J 0 J J J J J J J J J J J J J J J	単位時間 単単単単単単単単単単単単単単単単単単単位 位 中間 単単単単単単単単単単単単	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等の実施状況 (A、記入)	(令和6年度本 国産自動車 ■民間の評 ※有の場合、 (A:単位を (B:単位を	ま集生) 販売店、輸入自動車 販売店、輸入自動車 価機関等から第三キ 例えば以下について任意 評価団体: iukwac.ip/acet/2nd 特間による算定) 総授業時数 うち企業 うち必修 (うち企 対による算定) 総単位数 うち企業 うち必修 (うち企 すりません)	評価: 記載	要審年月: 実技の授業 実技の授業 必修の実験・ 必修の実験・ 変技の単位 を な 必修の実験・ で がある。 で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	年 月	受業時数 単位数	ホームページURL 号) 号) 号) 号)	160 J 0 J 1,730 J 160 J 0 J 3 J J J 5 J 1 J 0 J 0 J	単位時間 単単単単単単単単単単単単単単単単単単単位 位 中間 単単単単単単単単単単単単	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等の実施状況 (A、記入)	(令和6年度本 国産自動車 ■民間の評 ※有の場合、 (A:単位を (B:単位を	議生) 販売店、輸入自動車 販売店、輸入自動車 価機関等から第三者 例えば以下について任意 評価団体: iukw.ac.jp/acet/2nd 詩間による算定) 総授業時数 うち企業 うち必修 (うち企 対による算定) 総単位数 うち企業 うち必修 (うち企 ないまる第定) 2 学士の学校教育院に従事 の事に従ば事者 ② 学士の学校教諭等総	評価: 記載	要審年月: 実技の授業 実技の授業 必修の実験・ 必修の実験・ 変技の単位 を な 必修の実験・ で がある。 で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	年 月	受業時数 単位数 - - - - - - - - - -	ホームページURL 号) 号) 号) 号)	160 J 0 J 1,730 J 160 J 0 J 3 J J J 5 J 1 J 0 J 0 J	単位時間 単単位時間 単単位時間 単単位時間 単単位 単単位 単単位 単単位 単単位 単単位 上半 単位 上半 中位 上半 中位 上半 中位 上半 中位 上半 中位 上半 中位 上十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等の実施状況 (A、記入)	(令和6年度本 国産自動車 ■民間の評 ※有の場合、 (A:単位を (B:単位を	議生) 販売店、輸入自動車 販売店、輸入自動車 「価機関等から第三者 例えば以下について任意 評価団体: iukw.ac.ip/acet/2nd 詩間による算定) 総理位数 「うち企業 うち必修 (うち企 変による算定) 総単位数 「うち企業 うち必修 (うち企 変による算定) による算定) による対象を表現した。 による対象による対象による対象による対象による対象による対象による対象による対象	評価: 記載	要審年月: 実技の授業 実技の授業 必修の実験・ 必修の実験・ 変技の単位 を な 必修の実験・ で がある。 で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	年 月	受業時数 単位数 - - - - - - - - - -	ホームページURL 号) 号) 号) 号)	160 J 0 J 1,730 J 160 J 0 J 0 J 1,730 J 160 J 0 J 1,730 J 1,73	単位時間 単単位時間 単単位時間 単単位時間 単単位 単単位 単単位 単単位 単単位 単単位 上半 単位 上半 中位 上半 中位 上半 中位 上半 中位 上半 中位 上半 中位 上十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等の実施状況 (A、記入)	(令和6年度車 ■ 展開の副 ※有の場合、 https://aso	ま集生) 販売店、輸入自動車 販売店、輸入自動車 価機関等から第三名 例えば以下について任意 評価団体: iukwac.ip/acet/2nd 特間による算定) 総授業時数 うち企業 うち必修 (うち企 なによる算定) 総単位数 うち企業 うち必修 (うち企 ないまる第定) による第定) のではよる第定 のでは、まる第定 のでは、まる第定 のでは、まる第定 のでは、まる第定 のでは、まる第定 のでは、まる第定 のでは、まる第一には、まる第定 のでは、まる第一には、まる第定 のでは、まる第一には、まるを表しています。 のでは、まるを表しています。 のでは、まる。またのでは、まるのでは、まるのでは、まるのでは、まるのでは、まる。またのでは、まるのでは、	評価: 記載	要審年月: 東技の授業  家技の授業  必修の実験・ 必修の演習の  シップの授  実技の単位  変  な  必修の演習  で  な  な  必修の演習  に  に  に  に  に  に  に  に  に  に  に  に  に	年 月 寿数 実習・実技の引 授業時数) 校 実習・実技の引 単位数 立数) (専修学 (専修学	受業時数 単位数 - - - - - - - - - -	ホームページURL	160 J 0 J 1,730 J 160 J 0 J 3 J J 5 J 1,700 J 0 J 0 J 0 J 0 J 0 J 0 J 0 J 0 J 0 J	単位時間 単単位時間 単単位時間 単単位時間 単単位 単単位 単単位 単単位 単単位 単単位 上半 単位 上半 中位 上半 中位 上半 中位 上半 中位 上半 中位 上半 中位 上十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十	

- 1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係
- (1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

電子装置の採用等、自動車の新技術の普及と将来的には、低公害車の普及による更なる高度整備技術革新の進展が待っている状況のなか、認証工場の整備主任者としての責務を果たすことを目的とし、新しい電子制御機構や現在の整備作業の傾向を的確に把握し分析し、 正しい診断技術をも含めた整備及び検査ができる力をつける。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、専門性に関する動向や方向性等について意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的 とする。委員会は、次の項目を審議し、会議の結果を学科内でのカリキュラム会議に報告する。

- ①カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- ②各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- ③教科書・教材の選定に関する事項
- ④その他教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項

また、カリキュラム会議においては、教育課程委員会からの意見を参考に、学科の教育方針に則ったカリキュラムを検討し、策定する。

# (3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年7月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
寺﨑 浩二	一般社団法人福岡県自動車整備振興会 指導部部長	令和7年4月1日~令和8年3月 31日(1年)	1
嶋中 敏久	福岡トヨタ自動車株式会社 サービス部部長	令和6年9月1日~令和7年8月 31日(1年)	3
松﨑 真一	福岡トヨタ自動車株式会社 サービス部サービス技術課課長	令和6年9月1日~令和7年8月 31日(1年)	3
鶴留 康司	COZY 代表	令和7年4月1日~令和8年3月 31日(1年)	3
竹口 伸一郎	専門学校麻生工科自動車大学校 校長	令和7年4月1日~令和8年3月 31日(1年)	_
永江 貴史	専門学校麻生工科自動車大学校 校長代行	令和7年4月1日~令和8年3月 31日(1年)	_
小串 浩之	専門学校麻生工科自動車大学校 シニアエキスパート	令和7年4月1日~令和8年3月 31日(1年)	_
荒巻 裕二	専門学校麻生工科自動車大学校 主任	令和7年4月1日~令和8年3月 31日(1年)	_
古賀 裕朗	専門学校麻生工科自動車大学校 副主任	令和7年4月1日~令和8年3月 31日(1年)	_
西村 英功	専門学校麻生工科自動車大学校 副主任	令和7年4月1日~令和8年3月 31日(1年)	_

- ※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①~③のいずれに該当するか記載すること。
- (当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「一」を記載してください。)
  - ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、
  - 地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
  - ②学会や学術機関等の有識者
  - ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

# (4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (7月、10月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年7月11日 14:00~15:30

第2回 令和6年10月10日 15:30~17:00

- (5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
- ※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

道路運送車両法の改正や自動車技術の進展に対応するため、カリキュラムの見直しを行っている。委員会では、最新の診断機器や教材を導入することで、実習環境を充実させる必要があるとの意見をいただいている。特に、法改正で導入されたOBD検査を取り入れることや電子制御装置の診断実習をさらに充実させ、学生が現場で即戦力として活躍できる力を身に付ける必要がある。。

こうした意見を踏まえ、短期的には授業改善や教材整備を行い、中長期的には設備更新や教員研修を進めながら、教育内容の一層の充 実を図っている。

#### 2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

#### (1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

学生が基礎から応用まで段階的に技術を習得できるようにすることを重視している。具体的には、企業は学生に対し、駆動系統の分解や 組付け、タイヤの組み換えやホイールバランス調整といった整備士として不可欠な基本的技能を確実に身につけさせるとともに、最新の業 界動向を踏まえた四輪ホイールアライメントを活用した診断技術など、新しい整備技術を実習に取り入れている。これにより、学生は現場で 必要とされる知識や技能を実践的に学ぶことができ、将来の職業生活において即戦力として活躍できる力を養うことを基本方針としている。

#### (2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

国土交通省の指針に基づく基礎実習を確実に実施しつつ、現場で求められる最新の整備技術を取り入れたカリキュラムを、企業と協力し て構築している。連携先の企業は外国車を多く取り扱っているため、幅広い技術情報を提供いただいており、教育内容の充実につながって いる。学生の学修状況については、各単元ごとに試験やレポートを通して理解度を確認し、あわせて評価を行っている。さらに、前期・後期 末には企業担当者による学修成果の評価を参考にしながら、本校教員が成績を最終的に判定している。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科 目 概 要	連 携 企 業 等
シャシ整備実習 I	1. 【校内】企業等からの 講師が全ての授業を主担 当	動力伝達装置、アクスル及びサスペンション、ステアリング装置、ホイールアライメント、ブレーキ装置、フレーム及びボデー	株式会社CLERMONT

#### 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

#### (1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

研修については、教職員に対して、現在の職務又は今後就くことが予想される職務の遂行に必要な知識又は技能等を修得させ、その遂行 に必要な教職員の能力及び資質等の向上を図ることを目的として研修を受講させる。「教職員研修規程」に則り、専攻分野における実務に 関する研修や、指導力の修得・向上のための研修を教職員の業務経験や能力、担当する授業科目や授業以外の担当業務に応じて実施 し、より高度な職務を遂行するために必要な知識を修得させる。年度の初めに研修計画を作成し、各教職員のスキルに適した研修が計画 的に受講できるようにする。また必要に応じ、年初の計画以外の研修受講も可能としている。専攻分野における実務に関する研修について は、福岡県自動車整備振興会主催の技術研修及び法令研修をはじめし、各企業にて定期的に行われる技術研修を適宜受講。受講者はそ の内容を他教員へ展開することで、全教員のより高度な職務を遂行するために必要な知識を付与することを目的とする。

#### (2)研修等の実績

研修名:

内容

①専攻分野における実務に関する研修等

次世代自動車講習

連携企業等: 日産自動車株式会社 日産先進技術に関する体感講習会 研修名·

2024/8/7 対象・1名 期間:

e-pedalやe-40RCE、プロパイロット(自動運転)などの技術について 内容 開発者プレゼンテーション、先進・安全技術搭載車試乗/体感

2024/11/26 対象: 1名 期間:

衝突軽減ブレーキ搭載車の構成部品の配置・概要説明・エーミング作業・外部診断機の操作手順について

電気自動車の構造・構成部品の配置、構造説明並びに車両による確認作業

#### ②指導力の修得・向上のための研修等

中堅教職員研修会「新任指導力(メンタリング)」 連携企業等: (一財)職業教育・キャリア教育財団 研修名:

連携企業等: (一社)福岡県自動車整備振興会

期間: 2024/8/8~8/9 対象: 1名

中堅教職員(管理職)にとっての役割とは何かを知り、新任(部下)の指導育成のための目標管理や新任(部下)の能力・ 内容

メンバーシップを引き出すための適切な指導助言を学ぶ。

Z世代のメンタルヘルス~自分としてイキるをサポートする 連携企業等: うえむらメンタルサポート診療所 研修名:

期間: 対象: 1名

学生の心理的な健康を理解し、自己肯定感の低い学生に対する適切なサポートを考える 内容

## (3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

次世代自動車講習 連携企業等: (一社)福岡県自動車整備振興会 研修名:

2025/9/1 対象: 2名 期間:

衝突軽減ブレーキ搭載車の構成部品の配置・概要説明・エーミング作業・外部診断機の操作手順について 内容

電気自動車の構造・構成部品の配置、構造説明並びに車両による確認作業

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 専修学校教員「新任教員研修」 連携企業等: (ー財)職業教育・キャリア教育財団

期間: 2025/8/5~8/7 対象: 1名

学生・教員のための実践心理

内容 専修学校と制度

専修学校における職業教育

研修名: 「教育とハラスメントの境界線~アカハラとカスハラを学ぶ」 連携企業等: 吉田総合法律事務所

期間: 2025/8/20 対象: 1名

内容
アカデミックハラスメントの定義や具体的な事例を通して、指導時に注意すべきポイントを学ぶ。あわせて、カスタマーハ

ラスメントの実態や対処法について理解を深め、ハラスメントを未然に防ぐための対策について考える。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

#### (1)学校関係者評価の基本方針

本校の基本方針に基づき、学校運営が適正におこなわれているかを企業関係者、保護者、地域住民、高校関係者等の参画を得て、包括的・客観的に判定することで、学校運営の課題・改善点・方策を見出し、学校として組織的・継続的な改善を図る。また、情報を公表することにより、開かれた学校づくりをおこなう。

#### (2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像、他
(2)学校運営	運営方針、事業計画、人事·給与規程、業務効率化、他
(3)教育活動	業界の人材ニーズに沿った教育、実践的な職業教育、教職員の資質向上、他
(4)学修成果	教育目的達成に向けた目標設定、事後の評価・検証、就職率、退学率、他
(5)学生支援	修学支援、生活支援、進路支援、卒業生への支援、他
(6)教育環境	教育設備・教具の管理・整備、安全対策、就職指導室・図書室の整備、他
(7)学生の受入れ募集	APの明示、進路ニーズ把握、パンフレット・募集要項の内容、公正・適切な入試
(8)財務	財政的基盤の確立、適切な予算編成・執行、会計監査、財務情報公開
(9)法令等の遵守	専修学校設置基準の遵守、学内諸規程の整備・運用、自己点検・評価、他
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献、地域貢献、学生のボランティア活動の推奨、他
(11)国際交流	留学生の受入れ、支援体制

<sup>※(10)</sup>及び(11)については任意記載。

### (3)学校関係者評価結果の活用状況

学生の多様化が進む中で、卒業生のキャリア形成に関する意見を聴取することは、在学中における就職支援のあり方を評価するうえで重要であるとのご指摘をいただいている。本校においても、卒業生の就業状況やキャリア形成に関する情報を収集し、就職支援の効果検証や改善に活用している。今後は、卒業後の意見聴取の機会を拡充し、在学中の支援体制に反映させることで、より実効性の高いキャリア支援を行う。

# (4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和7年7月31日現在

	is detailed.							
名 前	所 属	任期	種別					
市川 利治	福岡トヨタ自動車株式会社 代表取締役専務	令和5年11月1日~令和7年10月31日(2年)	企業等委員					
堤 直樹	福岡トヨタ自動車株式会社 執行役員人事部部長	令和5年8月1日~令和7年7月31日 (2年)	企業等委員					
芹澤 毅	ダイハツ工業株式会社 くるま開発本部くらしとクルマの研究部エネルギーグリット開発室室長	令和5年9月1日~令和7年8月31日	企業等委員					
武田 真秀子	平成23年度卒業生	令和6年4月1日~令和8年3月31日 (2年)	卒業生					
杉本 誠	平成22年度卒業生	令和6年4月1日~令和8年3月31日 (2年)	卒業生					
石井 孝治	1級自動車整備科保護者	令和6年4月1日~令和8年3月31日 (2年)	保護者等					
村上 伸二	東比恵2丁目元町内会会長	令和5年11月1日~令和7年10月31 日(2年)	地域住民					
寺﨑 浩二	一般社団法人福岡県自動車整備振興会 指導部部長	令和7年4月1日~令和9年3月31日 (2年)	有識者					
佐伯 道彦	福岡工業大学附属城東高等学校校長	令和5年9月1日~令和7年8月31日 (2年)	高等学校関 係者					

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

# (5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ))

URL: <a href="https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/doc/acet/2024/hyoka.pdf">https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/doc/acet/2024/hyoka.pdf</a>

公表時期: 令和7年10月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育方針・カリキュラム・就職指導状況など学校運営に関して、企業等や高校関係者・保護者などに広く情報を提供することで、学校運営の透明性を図るとともに、本校に対する理解を深めていただくことを目的とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	歴史、教育理念、教育目標、ASOの考え方、3つの学びの特色
(2)各学科等の教育	入学者受入れ方針、教育課程編成・実施方針、カリキュラム、資格実績、就職実績
(3)教職員	教員一覧及び実務家教員科目
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職サポート、GCB教育、企業連携
(5)様々な教育活動・教育環境	学園祭、部活動・サークル活動、学外ボランティア
(6)学生の生活支援	生活環境サポート、留学生キャンパスライフ、留学生ASOの就職サポート
(7)学生納付金·修学支援	学費とサポート、学習支援(各種支援制度)
(8)学校の財務	事業報告書、貸借対照表、収支計算書、財産目録、監査報告書
(9)学校評価	自己点検·評価、学校関係者評価
(10)国際連携の状況	留学生入学案内、留学生学べる分野、グローバル教育、海外での大学教育
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)・ 広報誌等の刊行物・ その他( ))

URL: https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/acet/ 令和7年7月31日

公表時期:

# 授業科目等の概要

	(工業専門課程2級自動車整備科) 令和7年度															
		分類							抒	受業プ	法	場	所	教	員	
		選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	講	演習	実験・実習・実技		校外		兼任	との
1	0			基礎自動車整 備	整備の基礎知識、基本作業、測定作業、点検用機械工具、自動車に使われている材料についての種類、性質、特性、燃料、油脂の内容、潤滑及び潤滑油、作動油の内容	1 通	30		0			0		0	0	
2	0			エンジン構造	エンジン本体、潤滑装置、冷却装置燃料装置、 吸排気装置、電気装置	1 通	90		0			0		0	0	
3	0			シャシ構造	動力伝達、アクスル、サスペンション、 ステアリング装置、ホイール及びタイヤ、ホイールアライメント、ブレーキ装置、フレーム及びボデー		90		0			0		0		
4	0			電装構造	電気回路、オームの法則、電気、電子について の基礎、半導体、バッテリ、始動装置、充電装 置、点火装置	1 通	60		0			0		0	0	
5	0			二輪自動車	エンジン、シャシ、電気装置、点検整備	1 後	16		0			0		0		
6	0			数学 I	単位、基礎的な原理・法則、自動車の諸元、電 気の基礎	1 後	16		0			0		0		
7	0			数学Ⅱ	単位、高度な原理・法則、自動車の諸元、電気 の応用(応用編)	2 前	15		0			0		0		
8	0			法規・検査Ⅰ	道路運送車両法、道路運送車両の保安基準、道 路運送車両の保安基準の細目を定める告示	1 後	15		0			0		0		
9	0			法規・検査Ⅱ	道路運送車両法、道路運送車両の保安基準、道 路運送車両の保安基準の細目を定める告示	2 通	30		0			0		0		
10	0			motor	エンジン本体 (ガソリンエンジン及びジーゼル エンジン) 、潤滑装置、冷却装置、燃料装置、 吸排気装置、電子制御装置	2 通	60		0			0		0		
11	0			chassis	動力伝達、アクスル、サスペンション、ステア リング装置、ホイール及びタイヤ、ホイールア ライメント、ブレーキ装置、フレーム及びボ デー		60		0			0		0		
12	0			electri	エンジン、シャシ電気装置、始動装置、充電装置、点 火装置	2 通	45		0			0		0	0	
13	0				燃料及び潤滑剤、自動車の点検検査、故障探求、ハイブリット自動車及び電気自動車、先進 安全技術、製図		45		0			0		0	0	

	(工業専門課程2級自動車整備科) 令和7年度 分類															
		分類				配	授		挖	え 乗り	実	場	所	教	貝	企
	必修	択必	自由選択	授業科目名	授業科目概要	品当年次・学期	<sup>没</sup> 業 時 数	単位数		演習	実験・実習・実技		校外	専任	兼任	業等との
14	0			マナー	企業アプローチ、面接試験対策	1 前	15		0	Δ		0		0		
15			0	専科学科 I	自動車工学、自動車整備、構造の機器・取扱、 自動車検査、自動車整備に関する法規	1 後	15		0			0		0		
16			0	専科学科Ⅱ	自動車工学、自動車整備、構造の機器・取扱、 自動車検査、自動車整備に関する法規	2 後	15		0			0		0		
17	0			基礎実習	手仕上げ工作、機械工作、基本測定実習	1 前	120				0	0		0	0	
18	0			エンジン整備 実習 I	エンジン本体、冷却装置、潤滑装置、燃料装置	1 通	160				0	0		0	0	
19	0			シャシ整備実 習 I	動力伝達装置、アクスル及びサスペンション、 ステアリング装置、ホイールアライメント、ブ レーキ装置、フレーム及びボデー	1 通	160				0	0		0	0	0
20	0			電装整備実習 I	始動装置、充電装置、点火装置、電子制御装置、灯火装置、計器、ホーン、ワイパ、ウォッシャ、エアコン、電気装置の配線	1 通	131				0	0		0		
21	0				エンジン本体、冷却装置、潤滑装置、燃料装 置、エンジン故障原因探求	2 通	174				0	0		0		
22	0			シャシ整備実	動力伝達装置、アクスル及びサスペンション、 ステアリング装置、ホイール及びタイヤ、ホ イールアライメント、ブレーキ装置、フレーム 及びボデー、シャシ故障原因探求	2 通	174				0	0		0		
23	0			電装整備実習 Ⅱ	半導体、バッテリ、始動装置、充電装置、点火 装置、電子制御装置、灯火装置、計器、ホー ン、ワイパ、ウォッシャ、エアコン、電気装置 の配線、電装故障原因探求	2 通	174				0	0		0		
24	0			自動車検査作 業	道路運送車両法等の改正の概要、定期点検の実 施時期、点検整備記録簿、自動車メーカーが指 定する点検整備	2 後	50				0	0		0		
25			0	専科実習 I	自動車整備作業、工作作業、測定作業、自動車 検査作業	1 後	30				0	0		0		
26			0		自動車整備作業、工作作業、測定作業、自動車 検査作業	2 後	30				0	0		0		
			合	<u></u>	26	乔	目				1, 820			(単信	立時	間)

卒業要件及び履修方法	授業期間等			
卒業要件: 履修すべき全授業科目に合格していること。出席日数が出席すべき日数の 卒業要件: 90%以上であること。国土交通省の定める規定の時間を満たしていること。	1 学年の学期区分	2 期		
履修方法: 各授業科目の総授業時間数の3分の2以上出席し、C評価以上の評価を取得 であることで、当該科目を履修したことを認める。	1 学期の授業期間	15 週		

# (留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。